

## 第5回

# 音楽のかたちと社会のかたち

## ～世界の音楽（1）～

### 学習のねらい

「ハレルヤ・コーラス」と、日本の「木遣り歌」を比べてみると、音や声の合わせ方が社会によって非常に異なることがわかります。音楽がコミュニケーションである以上、音楽の形は社会のあり方に左右されるはずですが、実際、イヌイト、アフリカ、そしてインドネシア・バリ島の音楽には、人々の生業や社会の形が反映しているようにみえます。世界のさまざまな音楽の形に注目しながら、なぜそういう形が生まれたのかを考えてみましょう。



講師  
植村幸生

### 生業形態と音楽の関係

北極の先住民・イヌイト（エスキモー）には、生活スタイルごとによつものグループがあります。個人でトナカイの狩猟をして暮らしてきた人たちの歌は、歌と打楽器の間で拍が合っていません。それはほかの人と、あるいは歌と楽器の間で、拍を合わせる習慣がなかったからです。一方、同じ民族でありながら、集団で鯨を捕って生きてきた人たちは、捕鯨のために常に結束と協力が必要ですが、彼らの歌は太鼓のリズムと合っています。この例は、何で暮らしをたてているか（これを生業形態といいます）の違いがリズムに反映している例であると、日本の民族音楽学者、小泉文夫先生は指摘しました。

誤解のないように言うと、拍を合わせる習慣の有無は「文化の優劣」を意味しません。人間が環境に適応していくなかで、あるグループは「拍を合わせる」ことを必ずしも求めない社会生活を、別のグループは「拍を合わせる」ことを要求する社会生活を、それぞれ見いだしていったと見るべきでしょう。

### コール・アンド・レスポンス

コール・アンド・レスポンスとは「呼びかけと答え」という意味です。第1パートと第2パートがそれぞれ「呼びかけ」と「答え」のようにフレーズを交わしていく音楽の形式をいいます。第1パートが1人、第2パートがその他大勢という場合が多いです。

この形式の合唱はアフリカで、農耕民、牧畜民を問わず、最も一般的に見られます。1人のリーダーが強い統率をとり、集団がそれに従うことを理想とする社会が、こうした音楽の形式を生み出し、維持させてきたと考えられます。

かつて奴隷としてアメリカ大陸に連れていかれたアフリカ出身者とその子孫は、ゴスペル、

ジャズ、リズム・アンド・ブルース、サルサ、ルンバ、サンバなど、数多くの新しい音楽文化を生み出しました。そこにもこのコール・アンド・レスポンスの形が生きています。有名な「Oh Happy Day」をはじめとするゴスペル（アフリカ系アメリカ人の教会音楽）にはその典型的な形が見られます。

### パートのからみあい バリ島の音楽

東南アジアにも多彩なアンサンブルの伝統があります。その基本原理は「複数の人が音を出し合い、その組み合わせで1つのパターンを成り立たせる」というものです。その端的な例が、インドネシア・バリ島のケチャという芸能で、男性の合唱隊による「チャ、チャ、チャ」という声を伴奏に、『ラーマーヤナ』という物語を演じるものです。

ケチャはもともとサンギャンと呼ばれる神がかりの儀式から作られました。村に災いが起きたとき、サンギャンを行って、神がかった少女を通して神の意志を聞きます。村人がもっとも気持ちを合わせなければならないときに行うアンサンブルが、このケチャなのです。

同じバリ島の合奏音楽であるガムランにも「複数のパートの組み合わせでパターンを作る」という原理が貫かれています。例えば、同じ楽器を2人で演奏し、一方が表拍で「ド・ファ・ド・ソ・」を、他方が裏拍で「・ミ・ミ・シ・シ」を、同時に演奏すると、全体として「ドミファミドシソシ」が聞こえます。実際の楽曲ではずっと複雑に組み合わせます。

こうした音楽作りの方法が育まれた理由として、バリ島の人々の暮らし方、考え方を挙げることができます。バリ島の農村社会は、人々が常に助け合いながら限られた土地と水資源を分け合う、緊密な共同体をなしています。そこでは異なるものどうしのバランスを重んじる価値観が生活の知恵として育まれました。各パートの複雑な絡み合いは、そうした価値観をはっきり表しており、こうした合奏音楽に幼少時から親しむことを通じて、バリ島の人々はその生き方を学んでいるともいえます。

\* \* \*

こうしてみると、人々が作り上げ伝えてきた音楽の中に、その人々の社会のしくみが反映しているという仮説を立てられます。もちろん社会のしくみだけでは音楽のすべてを説明できませんが、この仮説は、人間が何のために音楽をするのか、という大きな問いと直結しています。世界のさまざまな音楽の形に注目しながら、なぜそういう形が生まれたのかを考えてみることは、文化としての音楽の理解を深めてくれると思います。

### ワードファイル

- 木遣り歌……………日本民謡の 1 つ。本来は材木を運ぶときの仕事歌だが、祝い事や祭りでも歌われる。
- ゴスペル……………アフリカ系アメリカ人が賛美歌とアフリカ音楽の要素に基づいてうみ出した教会音楽。

### ♪ 今回取り上げる曲 ♪♪

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| ● 「ハレルヤ・コーラス」 (ヘンデル)     | ● ゴスペル「Oh Happy Day」      |
| ● 江戸木遣り「どんしょめ」           | ● インドネシア・バリ島 ケチャ          |
| ● イヌイットの歌「ドラム・ソング」/アラスカ  | ● インドネシア・バリ島 ガムラン「ウジャンマス」 |
| エスキモーの歌「セイウチの踊り」         |                           |
| ● アフリカ・ブルキナファソ ロビ族の女性の合唱 |                           |